

FDセミナー講演によせて

英語教育研究室主任 一ノ瀬 和夫

英語教育研究室は毎学期の始めに、授業の改善と質の向上を目的としたFDセミナーを開催している。これまでは、外部の講師を招いて英語教育をめぐるさまざまな話題についての講演、あるいは内部の、主に嘱託講師の方たちの授業実践報告などをセミナーの主要なプログラムとしてきた。

しかしながらここ数年、少なからぬ教員から、英語教育以前の授業運営そのものが困難になってきているとの指摘が増えていた。この点は英語教育研究室としてもたびたび話題にしていたことでもあったが、2006年度からの新カリキュラムの実施を控え、より効果的な英語教育を実践していく上でも、もう一度この時点で原点に戻り、われわれ教員が今教えている学生がどんな状況のなかで、どんな心理状態にあるのかを再検証することは非常に大切であり、かつ是非とも必要な手続きになるとの認識に至った。そこで、大学の学生相談所にもご助言いただき、青年心理学を専門とされる本学の久野先生に2005年春のFDセミナーでのご講演をお願いすることにした。

ご講演の具体的内容は久野先生の文章をお読みいただくとして、印象的だったのは、ご講演の後の質疑応答がいつになく活発なもので、予定の時間では足りないほどのものであったことである。話題は、個々の事例から一般論に至る、広い分野をカバーするもので、ご講演の内容と併せることで、現在の学生の心理状況に対するわれわれ英語教員の理解を拡張、伸張させるものであった。とりわけ、当日はご講演を同時通訳を通して英語でも流したため、多くのネイティブ教員にとっては極めて貴重な経験になったことである。全カリ英語には多くのネイティブ教員が所属し、その授業に対する学生たちの期待も大きいものがあるが、当然文化的背景の違いによる行き違いも時には起こる。その文化の衝突自体が大切な授業内容でもあるが、教員側に学生の心理状況へのきめ細かな理解があるのとないのとでは、その教育的効果は大きく異なってくる。その意味で、当FDセミナーに対するネイティブ教員からの評価が高かったことは、何よりの収穫であったと考えている。